

里地担い手

里地担い手が地域を育てる

専門農家の高齢化や農家戸数の減少は、里地の抱える最も深い課題です。生産物の販路をいかに確保するか。里地に新たな雇用の場をどのように作り出すか。里地担い手をどのように増やすか。地域の活性化に寄与する人材を選び、誘致して地域に風を呼び込むことで里地担い手を増やす取り組みがあります。

事例 熊本県おくにまち小国町



木魂館は、地元の木材を利用して建設した宿泊・交流・人材育成のための自治公民館です

人の誘致

小国町では、どのようなタイプの人材が地元であれば、地域は活性化するのかを考え、イベントやセミナーを通じて、人材の発掘と誘致を行っています。牧場を作り羊を飼いニット工房を立ち上げる人、そばを播き、店を開き、音楽を演奏する人。これまでにいなかった人材は、新たな付加価値を地域にもたらし、雇用の場も生まれます。

小国町の外部参加者の実態

外部参加者	家族・住居など	職業・勤務地	移住・参加前の居住
< A氏 > 1986年西里地区に移住、大分出身	・本人40歳位、妻長男高三、次男中三、長女小六 ・一戸建住居と別棟工房の借家	・木工芸家 ・オーダー家具の「鯛工房」 ・制作活動は自宅横の工房	・大学卒業後東京で工業デザイナーとして会社勤務 ・その後宮城県に居住し、職業短大で教えていた ・勤務に追われ制作活動が思うようにできないため移住
< B氏 > 1992年10月北里地区に移住、福岡出身	・本人71歳、妻 ・息子は福岡在住 ・一戸建住居と音楽ホール所有	・音楽家・リコーダー、コーラス、演奏の指導 ・ASO音楽ホール、福岡、大分などへの指導	・東京から「ターン」。福岡県に30数年居住しリコーダー、コーラス、演奏の指導 ・国内外でコーラスや古音楽の演奏旅行を行っていた
< C氏 > 1996年4月北里地区に移住、福岡出身	・本人46歳位、妻31歳、陶芸家 ・広島県出身、長女4歳 ・一戸建住居の持ち家、借地	・リコーダー演奏家、木工クラフマン、そば打ち職人 ・ASOホール、木魂館、福岡等	・古い保育園の建物を借り8年間 ・前居住地では水不足多発で生活がしづらいため移住を決めた

地域泊と交流

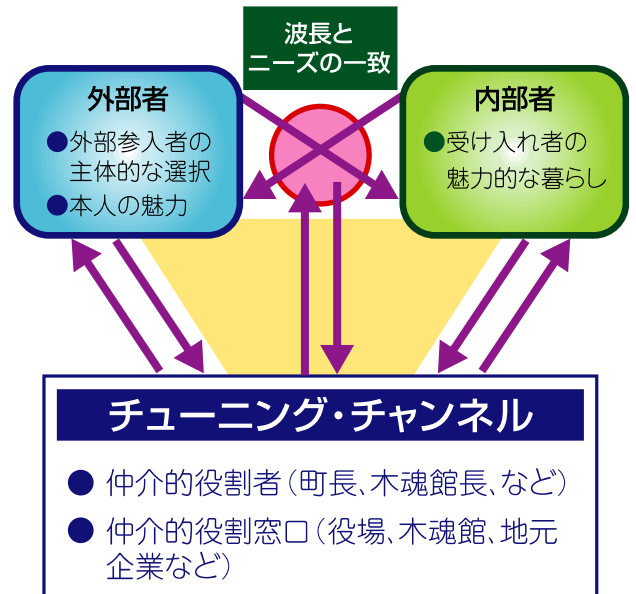
里地担い手や外部人材を積極的に受け入れるために、行事やイベントの際、地域泊(自治公民館泊)や民泊などさまざまな交流を行政が進めています。

地域計画と環境整備

里地担い手や外部人材の参入を前提として、新しい里地の地域計画を策定し、里地づくりを始めると、計画の魅力が参入希望者を増やしていきます。

起業を助ける

行政の役割は、里地担い手や人材の誘致を行い、その人の起業を助けることです。地域との出会いの場をつくり、家主と空家の現況を把握し、農家や地元住民との調整役を果たしています。



元アナウンサーを誘致し、町職員として雇用
小国 FMを立ち上げた



地域環境と木造建築物の景観が気に入り移住を決めた家具職人

小国町への参入のきっかけ	仲介者、移住 参入理由と目的	移住後・参入後のライフスタイル
<ul style="list-style-type: none"> ・工房と自然環境を重視し、東北や北海道の移住先を探した ・友人に紹介されて、知った 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲介者は小国を知っていた友人 ・役場企画班に移住の相談に行き、別棟になった住居と工房を探してくれた ・環境と建物が気に入り移住を決めた ・家具制作・木工クラフトの学校、木工研究所をつくりクラフトマンの養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ調の椅子、テーブル等の家具制作 ・夏は自給の野菜を作る ・木工仲間が近くに移住した ・木工仲間のネットワークづくりのため「木考通信」発行(悠木の里づくりの町補助金を受けている) ・多くのお客さんが工房を訪れる
<ul style="list-style-type: none"> ・良いホールがあると聞いて訪れた ・森林組合と企画班が対応 ・自分が古音楽を演奏するホールを探し、作るために 	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜市場や小国ドームなど古音楽に適した良いホールがある ・杉林や空気に囲まれた自然環境が古楽器演奏に最適 	<ul style="list-style-type: none"> ・おくに音楽祭の開催など年4回の演奏会 ・おくに音楽祭の10回開催以後はオペラを開催したい ・町内の人たちを中心にリコーダー演奏の指導 ・ピクニック等自然散策や地元の人たちとの交流が楽しい ・木魂館の文化講演会等のイベントにも参加している
<ul style="list-style-type: none"> ・8年音楽祭で初めて訪れ、その後数回訪れた ・叔父が92年に移住後、年に4回くらい訪れるようになった ・活気があり地元の人も考えながら生活しているから移住を決めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・叔父に相談し、木魂館館長と役場企画班に移住の相談に行った ・演奏活動、木工づくり、そば打ち。ASOホールでそば屋を開店し、そば打ち講習会を開きたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・木魂館での文化講演会や交流会に参加している ・「森とワインと音楽」ミニ演奏会に参加と協力 ・バランの年越しそば屋に参加と協力 ・子どもリコーダーの指導や町内小学校の演奏巡回 ・妻は陶芸窯をつくり、陶芸教室を行なう予定 ・しの笛・津軽三味線・リコーダー等のコンサートを年1回は開催したい

(出典: 実験心理学研究第37巻 第2号岡田・河原 交流時代における中山間地域の外部参入過程に関する実証実験より)